

ベンチのマナー等について

ミニバスケットボールの競技規則の『まえがき』に、『競技が”友情・ほほえみ・フェアプレー”の精神によって行われること。』とあります。また『ゲームで勝敗を競うのは、子ども達にとって非常に魅力的なことではありますが、何が何でも勝つと言う考え方を子ども達に教え込んではいけません。そして、必要な厳格さと寛大さを併せ持ち、広い視野に立って規則を理解し、子ども達が何を身につけるべきか考えてほしい。』とあります。私たち指導者は、この事を肝に銘じ、子ども達をよりよく成長させるために、ミニバスケットボールの指導を行わなければなりません。そこで以下に掲げるベンチマナーを徹底して下さい。

1. 監督・コーチのベンチのマナーについて

次のようなことを行ってはいけません。

- ◎ 審判（テーブルオフィシャルズを含む）や相手に対して、不作法に話しかけたり、大きな声を出すこと。
- ◎ プレイに対して「ファウル！」 「歩いた！」等の声を出したり、審判の判定に対して不作法に不服を言うこと。
- ◎ テーブルや椅子をたたいたり、蹴ったりすること。
- ◎ ゲーム中にコートの中に入ること。（プレーヤーの負傷等、特別な場合を除く）
- ◎ チームの責任者が、チームベンチの前を離れて指示を出すこと。
- ◎ ベンチの内外を問わず、プレーヤーに対して暴力的な行為を行うこと。
- ◎ ベンチからの大声での人格を否定するような叱責や暴言等また聞き苦しい言葉などを言うこと。

このような行為に対して、審判は厳格に対処します。また、内容によっては大会本部としても注意や警告のみに留まらず、出場停止等の重い処分をすることもあります。

2. 審判・テーブルオフィシャルズへの支援について

ミニバスケットボールは、審判やテーブルオフィシャルズが未熟な場合があり、ゲーム中に判定や処置などにミスが起こることが考えられます。しかし、ベンチや観衆はそれを非難することなく、同じミニバスケットボールを育てる仲間として寛容に対処すべきだと考えます。ご協力をお願い致します。しかし、審判やテーブルオフィシャルズは、その寛容に甘んじることなく、プレーヤーやベンチがその力を最大限に発揮できるよう、常に普段からの技術の向上に向けて努力すべきことは言うまでもありません。

3. 指導者の暴力行為について

ゲーム会場において、そのチームがゲーム中か否かを問わず、プレーヤーに対して指導者が暴力的な行為を行うことは厳に慎むべきことです。これは、単に自チーム内においての問題ではなく、児童の人権擁護と健全な育成・指導の点から、ミニバスケットボール全体に対して、大きな誤解を招く恐れがあるからです。暴力的な行為が認められた場合、大会本部はそのチームに対して厳格な処置を行います。また言葉による威圧や暴力も考慮に入れ、適切な指導助言を行いましょう。

4. 保護者の応援について

ベンチ外の保護者の応援は、ミニバスケットボールの性格上、必要不可欠なものといえます。しかし、興奮のあまり、時に自チームの応援に留まらず、相手チームの中傷や審判の罵声が聞かれることもあります。このベンチ外の応援についてはルール上何ら規定はありませんが、ミニバスケットボールにおいては、児童との関わりにおいて、それを見逃すことはできません。また、チームの品位や、指導者の資質まで疑われることにもなります。このような点から、各チームの指導者はベンチの応援についても、十分な配慮をお願い致します。